

■グループワークでの意見（機能別）

次回以降のワークショップにおける公共施設の再編モデル案の検討に向け、再編手法の理解を深めていただくため、グループワークとして架空施設を用いた公共施設再編ゲームを行いました。

下表では、各グループから出た意見を公共施設の再編における主な視点ごとに分類して記載しています。

※複数のグループから出た意見には下線もしくは二重下線を付しており、二重下線はより多くのグループから出た意見であることを表します。

No.	サービス機能	内容	主な施設分野	民間活力の活用	効果的な機能の組み合わせ	サービス提供量の方向性	施設配置	その他の意見
1	行政機能	<ul style="list-style-type: none"> 行政手続きを申請する 行政に相談をする 証明書等を受け取る 	市庁舎出張所		<ul style="list-style-type: none"> 市庁舎と図書館を複合化することで、さらに人の集まる施設として活気が高まると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>マイナンバーカードやICT技術の活用により、コンビニなどでの手続きが可能となれば、庁舎・出張所の縮小が可能である。</u> 市民課窓口の混雑緩和の観点から、手続き窓口の増加が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政機能（相談窓口）は、学校施設などの地域に根差した施設の一部に入れて、分散型の配置とするべきである。 市民ニーズとしては、手続き窓口よりも相談窓口が身近な場所にあることが重要だと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保谷庁舎の行政機能が一部移転したため、田無庁舎へのアクセス性を向上させる取組が必要である。 図書館と複合化させるなど、庁舎を市のシンボリックな建物として、他自治体に類を見ない特徴的なものとしてほしい。 一部の行政手続きがコンビニ等でできることを周知するべき。 施設の新規整備による対応ではなく、まずは既存施設の有効活用を図るべきである。 行政機能（相談窓口）は、地域包括支援センターとの連携について考える必要がある。

No.	サービス機能	内容	主な施設分野	民間活力の活用	効果的な機能の組み合わせ	サービス提供量の方向性	施設配置	その他の意見
2	図書機能	<ul style="list-style-type: none"> ・図書等を閲覧する ・図書等を借りる 	図書館			<ul style="list-style-type: none"> ・他市と比較しても規模が小さいため、街の魅力となるような20万都市にふさわしいサービスレベルの中央図書館が必要である。 ・資料の充実のほか、閲覧室の拡充、朗読スペースや学習スペースの確保など機能アップを図るべきである。 ・子育て世代は、子どもが地域の身近な場所（徒歩圏内の施設）で本に触れることのできる環境を求めているため、図書館の増設が望めないのであれば、学校図書室の一般開放や児童館図書室の充実が必要である。 ・集約化により中央図書館を拡充する一方で、地域館はデジタル化などのソフト面からの取組により規模を縮小することが考えられる。 ・デジタル化を進めたとしても、紙媒体の資料の保存は引き続き必要であるため、規模縮小にはつながらないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は駅周辺での配置が適している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化や、開館時間の延長など、ソフト面での課題も今後検討する必要がある。 ・図書館を中心としたまちづくりが良い。 ・学校図書室の司書の配置が2校に1人となっているため、ソフト面からの充実も図る必要がある。
3	生涯学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を聞く、習う ・自己が学習する ・趣味等の活動を行う 	公民館 消費者センター 環境施設 その他の社会教育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設には、民間委託を導入すべきではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料室は、サービス内容が良かったため、公民館と複合化することなどにより、さらなる機能向上を図るべきである。 		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館等の社会教育の場は、地域の身近な施設にあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習機能を有する施設が、高齢者だけでなく、より幅広い世代に利用される取組が必要である。 ・公民館に専門職を常駐させる必要がある。 ・西東京市の公民館は、他自治体と比較してサービス内容が良い。
4	文化機能	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽、演劇等の芸術文化活動を鑑賞、観覧する ・発表会を行う、観覧する 	文化施設			<ul style="list-style-type: none"> ・他市と比較して施設規模が小さく、200人程度の収容レベルでは物足りない。 ・市民会館が廃止となったことによりサービス量が減少したが、現状のままでも良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の大規模ホールの相互利用によるサービス機能の向上が可能だと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりにおいて中心となるサービス機能である。

No.	サービス機能	内容	主な施設分野	民間活力の活用	効果的な機能の組み合わせ	サービス提供量の方向性	施設配置	その他の意見
5	貸館機能	<ul style="list-style-type: none"> ・会議、集会などを行う ・趣味等の活動を行う 	市民交流施設			<ul style="list-style-type: none"> ・<u>夜間帯はそもそも市民ニーズが低い（公民館でも多少空きがある状態である）ことから、利用率だけを考慮して安易にサービス量を減少させてはならない。</u> ・<u>調理室などの特別な設備のある部屋は、需要が高く、場所も限られているため、増加させる必要がある。</u> ・<u>公民館の貸部屋の予約が取れず、サービス量が不足していると感じる。</u> ・子どもの利用を優先したうえで、日中などの児童・生徒がいない時間帯は、児童館や学童クラブを広く一般に開放するべきである。 ・<u>今後の高齢化の進展を踏まえると当面は維持すべきであるが、将来的にはサービス量が過剰になると思われるため、縮小の可能性がある。</u> ・Web会議アプリなどのオンライン機能が普及すれば、集会所は縮小できると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺に施設があれば使い勝手がよいと思われる。 ・実際に利用されるのは自宅周辺の施設であり、自宅から離れた施設の利用はあまり想定されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズの低い夜間帯については、貸館以外の用途で使うことが可能だと思われる。 ・施設ごとに、年間を通じた利用状況や混雑時期の傾向などをまとめてもらえると、利用団体としての年間計画を立てるときに、複数団体の利用日が特定の曜日に集中するなどの偏りが防げると思われる。（公共施設の利用団体は、毎週特定の曜日・時間に定期的に利用していることが多い。） ・利用率の低い施設は、施設自体の劣化・機能不足、使用用途の限定、予約方法の煩雑さといった理由が多いように感じる。 ・西原総合教育施設の部屋を借りる場合、電話予約となっているが、公民館のようにシステム対応してほしい。
6	学校教育機能	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育、特別支援教育を受ける ・学校行事を行う 	小・中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>学校プールの代替として民間プールを活用するメリット（専門のインストラクターによる指導、運用上の財政負担の軽減など）はあると思うが、移動の問題、時間割の問題、さらには部活動の問題を検討しなければならない。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>文科省は1クラス30人学級を目指しているため、児童・生徒数が減少となっても、使用する教室は現状維持が増加すると思われる。</u> ・少人数学級や障害など課題のある児童・生徒への対応を考慮すると、サービス提供方法の変化やサービスの質の向上が求められ、それがサービス提供量の増加にもつながると思われる。 ・教育環境の変化への対応のため、普通教室以外の用途でもスペースが必要となることも考慮しなければならない。 ・小・中学校のプールは、民間活用により縮小したうえで、空いたスペースに他機能を加えることが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>学校数が減少した場合、通学距離が伸びる地域については、登下校の危険度が上がってしまうため、通学区の見直しなどの対応も必要である。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>少子化の進展を踏まえると、学校の空きスペースの有効活用を検討する必要がある。また、建替えの際には、将来の転用を前提とした設計にすべきである。</u> ・学校には様々な用途の部屋があるため、一般開放を進めるべきである。また、今後は一般開放を前提とした設計を行うべきだと思う。 ・<u>コロナ対策として少人数学級への対応が必要であり、より良い教育環境の整備を検討するべきである。</u> 	

No.	サービス機能	内容	主な施設分野	民間活力の活用	効果的な機能の組み合わせ	サービス提供量の方向性	施設配置	その他の意見
7	子育て支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援を受ける ・子どもが過ごす ・子どもが遊ぶ 	児童館 学童クラブ 子ども総合支援施設	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館や学童クラブは民間委託を進めていくべきである。 		<ul style="list-style-type: none"> ・年少人口が減少する一方で、夫婦共働き世帯の増加は今後も進むと思われるため、子育てをサポートする機能は今後も重要となるが、中長期的にはニーズが低下すると思われる。 ・学童クラブについては、不足している地域があり増加させる必要がある。 		
8	保育機能	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを預ける ・子どもが過ごす 	保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・民設民営の保育園が多数存在することからも、民間活用を進めていくべきだが、公設公営の保育園も一定程度維持していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ面から複合化には適さないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年少人口が減少する一方で、夫婦共働き世帯の増加は今後も進むと思われるため、子育てをサポートする機能は今後も重要となるが、中長期的にはニーズが低下すると思われる。 ・人口減少対策のためにも子育て環境の整備は必要である。 ・働き方改革により在宅ワークが増えているが、子どもの世話をしながら仕事をするのは難しいため、保育ニーズの減少にはつながらないと思われる。 		
9	福祉機能	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検診を受ける ・高齢者が過ごす ・介護サービスを受ける ・障害者サービスを受ける、作業を行う ・機能訓練を受ける 	保健福祉施設 高齢者福祉施設 障害者福祉施設					
10	スポーツ機能	<ul style="list-style-type: none"> ・球技、武道等を行う ・水泳を行う 	スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>民間施設（プール、フィットネスクラブなど）の使用は可能だと思いが、利用料金の助成などと一体的に検討するべきである。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化機能とスポーツ機能はともに広い場所が必要であること、体育室と舞台のあるホールの併用が可能であることから、機能親和性があると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他市と比較しても小規模施設しかないので、設備などを充実させ、競技大会が出来る規模の施設を整備するべきである。 ・学校体育館は、学校行事が優先されてしまい使用できない場合があること、各校で利用方法が異なることから、スポーツ機能として考慮する場合は運用方法も検討が必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・校庭の貸出しについて、より多くの市民が使用できるよう、利用制限の緩和等を検討するべきである。